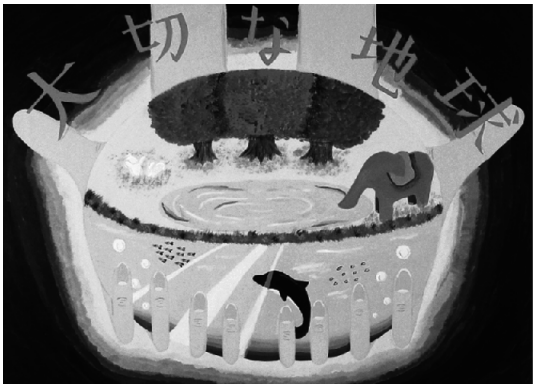
特選文

戦争と平和

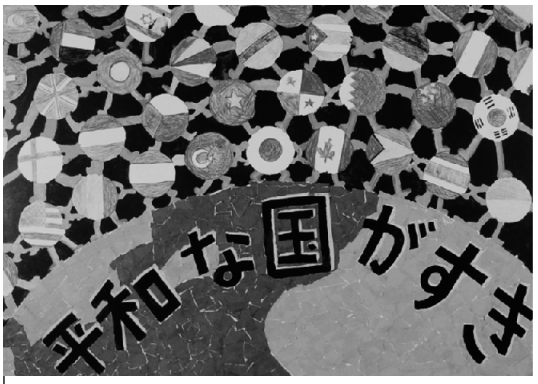
金沢市立清泉中学校三年　前坂　万璃子

なぜ人が同じ人をおとしめようとするのか分からない。私の周りにそんな人はいない。私も誰かを差別しようとか仲間はずれにしようと思ったことがない。ちょっと近寄りがたい雰囲気を持つ人でも話してみると、意外と気さくに話せたり、同じ趣味を持っていたりと自分にとってプラスになることの方が多い。そしていつも楽しい気分でいられる。それがどうだ。テレビや新聞で毎日のように報道されている事件。不満やストレスから誰かを痛めつけたり傷つけたりするようなあの事件は一体どういう事なのだろう。事件の犯人はいつも自分勝手だと思う。いつも自分を被害者のようにいう。そして事件の解説者たちも社会の風潮がこういう事件を引き起こしたのだと説明する。結局、悪いのは私たち一般人なのか。



私は納得できない。

「あいつが悪い」「世の中が悪い」、人のせいにするのは簡単だ。人のせいにしていれば自分はいつまでも悪者にならなくて済む。けれどそこから何か得られるものがあるのだろうか。私だって友達とけんかすることがある。頭にきているときは相手が悪いと言ってみたりもする。しかし少し冷静になって振り返って見れば、お互い様だなと思うことの方が多い。そしてそんなときは自分から話しかけて「ごめんね」と言ってみる。すると不思議なことに相手も同じように考えていてくれて、こちらが期待していたような謝罪の言葉が返ってくる。私も相手もすっきりした気持ちになれてまた仲良くやっていけるのである。母はよく「感謝と謝罪は早ければ早いほどいい。」と言う。私もその通りだと思う。自分の思いはきちんと伝えた方がいい。たとえたどたどしくても一生懸命伝えようとすれば、気持ちは伝わるからだ。私も母の言うように行動してみたら意外とうまくいく。「ありがとうとごめんなさいは魔法の言葉」、これが私の座右の銘だ。



しかし、大人たちは「子どもの世界だから通用するのだ。」とか「お人好しは結局だまされて、後から泣きを見る。」と言って笑うのだ。けれどその大人たちが起こしてる事件はどうだ。不正行為は世の中に満ちあふれている。自分がよければそれでいいというのは何も子どもに限ったことではない。ウナギの偽装、和牛の偽装、賄賂、先生の採用での不正。すべて偉い人たちが起こしていることだ。こんな世の中が住みやすいのだろうか。私たち子どもが未来を描ける世界なのだろうか。けれど私は世界の中のせいや他人のせいにはしない。悪いのは悪いことをした人だ。私は絶対そんなふうにはならない。「魔法の言葉」をずっと信じて人生を生きていくつもりだ。

世界は広い。いろんな人種、文化、様々である。そしてたくさんの問題がある。人口、病気、飢餓、環境、宗教、内紛、拉致、戦争。それぞれの事情も何もかも違う人たちと平和な世の中を築いていこうとするのは本当にたいへんだ。理解といっても限界がある。けれど私はあえて訴える。「ありがとうとごめんなさい」を。疑心暗鬼に陥って、足下をすくわれないように生きていくのはとても辛い。神経が参ってしまうと思う。けれど「ありがとう」と素直に感謝されて怒る人もいないだろう。「ごめんなさい」と悪かったという思いは伝えた方が気分がいい。誰もがある程度幸せでちょっぴり悲しいけれど我慢できて、誰かを大切に思うことができて、やっぱり生きててよかったなと思える世界が私の理想だ。共存共栄。使い古された言葉だが、今の私の気持ちを表すにはぴったりの言葉だ。誰もがそれを望んだなら、大きな壁を乗り越えることができるのではないだろうか。そしてそれを乗り越えたとき、人々はより多くの幸せを手にすることができるだろう。私は世界を変えるだけの力がないことなどはじめから分かっている。でも人と仲良くやっていくという最低限度のことは努力するつもりだ。こうした一般の人々の小さな努力が歴史を作ってきたからだ。私たちの行動は未来へつながっている。そして私は未来につながる今を生きている。そのことを決して忘れずに毎日を生きていきたい。

写真はポスター特賞作品
中村　侑依さん（上）と
本　千聖さん（下）

◎総評（審査員7人の感想）

ポスターは、平和や環境、地球生物同士の愛など伝えたいことが伝わる作品が多く、心温まる思いがした。構図や色の組み合わせもよく工夫されていた。中学生では、平和をつくる主体者になることが大切と訴える、中学生らしい成長を思わせる作品が目を引いた。

作文は、学校で習ったことを踏まえ、内容をよく消化した上で自分なりの言葉をもって感想を述べているもの、また自分の体験を反映させているものなどが高く評価された。自分のことだけを考える風潮が広がる現代にあって、世界平和についていろいろ考える良い機会になったようだ。応募数が増えたことも頼もしい。

世界連邦ポスター・作文の入賞者を表彰

2008年度世界連邦小中学生ポスター・作文コンクールの入選作品は以下のとおり決まり、十一月五日から十八日まで金沢市香林坊アトリオ二階で展示された。表彰式は十一月九日金沢エクセルホテル東急で行われ、杉山栄太郎会長から賞状などが授与された＝写真＝。応募作品はポスターが小中学校合わせて二百三十四点、作文は同百十三点。優秀作品は全国大会にも出品された。

◇ポスターの部　▽小学校《特賞》本千聖（金沢市小坂五年）《入賞》赤玉裕里子（同泉野四年）、奥居愛果（同金石町六年）《佳作》田中佐紀（同泉野五年）、越馬悠介（同弥生五年）**▽中学校**《特賞》中村侑依（金沢市浅野川二年）《入賞》高田ゆき（同泉一年）、小林夕柊（同西南部二年）《佳作》角梨夏子（同額三年）、中野可揺子（同高岡二年）

◇作文の部　▽小学校《特賞》川坂美菜子（金沢市中央五年）《入賞》吉田響（同五年）、大坪勇翔（金沢市浅野川四年）《佳作》山田菜月（金沢市中央五年）、河合雛子（同浅野川二年）**▽中学校**《特賞》前坂万璃子（金沢市清泉三年）《入賞》稲亮佑（金沢市泉三年）、松井彩希子（同清泉三年）《佳作》宮谷真由子（金沢市泉一年）、堀田真由（白山市笠間三年）、会澤亜希子（同三年）、押田杏梨（同北辰二年）、和田凪沙（同二年）